



題字 井口 文章
再刊 第402号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2022

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：今年度の生徒会の成果、反省点は
芸術鑑賞会で落語を鑑賞
二面：新旧生徒会役員による座談会が開催
小平ゆかりの彫刻家、平柳田中の特別展へ

改革の1年間を振り返る

掲げていた公約の達成度は

11月4日(金)に生徒会選挙が行われた。今号では、1年間錦城を引っ張り、今回の選挙で任期を終了した今年度の生徒会役員の公約の総括や達成度をお届けする。

元生徒会長

昨年、公約として校則の見直しとスマートフォン使用ルールの見直しを挙げていた藤田さんが達成したことは、テスト期間にコピー機を使用できるようにしたことだ。その反面、達成できなかったのは、スマートフォンの規制緩和だそう。スマートフォンの校内使用が減らない現状が課題だ。



左上から時計回りに元生徒会長、元生徒会副会長、元監査副委員長、元監査委員長

元生徒会副会長

生徒会副会長の高梨恭一さん(2A)は公約として、自動販売機のラインナップの拡充と自習室の開放時間の延長を掲げていた。1つ目の自販機は、任期中に達成できた。

元監査副委員長

今期生徒会へ「監査委員会」で意見箱の設置場所などについて話し合いを進めていた。そのことについて突き詰めて、寄せられた意見についてより詳しく知るためのアンケートの実施もしてほしいと語った。

寄席で楽しむ伝統芸能 芸術鑑賞会開催

芸術鑑賞会開催

11月8日(火)にルネこだいから、1・2年生合同での芸術鑑賞会が行われた。今回の芸術鑑賞会は落語を鑑賞。まず、桂小文治さんによって寄席入門が行われ、落語の概要、場所の説明がされた。次に春風亭昇也さんが少年の勘違いをユーモアに描いた小唄を披露。会場が笑いの渦に包まれた。次に寄席入門も行った桂小文治さんがお土産にまつわる小唄を披露した。



アクロパティックなこま回し

こま回しの曲芸を行い、錦城生とのコラボなども披露して会場は大きな盛り上がりを見せた。最後は、桂雀々さんが動物園を舞台にした上方落語の小唄を行い、鑑賞会は大盛況で幕を閉じた。今回の鑑賞会の感想をAさん(2年)は「一生で落語を聞くのは初めてですが、落語家さんの話し方がうまくて、楽しみな鑑賞会でした」と話す。鑑賞会後、最後に落語を披露した。



落語の魅力を広めたいという

「最高級の反応でした。舞台上上がったときから雰囲気が出てきた。自分も今年行った寄席の中で最高の反応だったと思います」と笑顔で話してくれた。舞台裏で雀々さんは、芸を披露した落語家さんが錦城生の反応に喜んで帰ってきたのを見ていた。落語家の仕事を「本業でもあり、趣味でもあるもの」と語る雀々さん。中1のころにラジオから流れていた落語に出会い、それ以来落語を続けたいと語った。(香)

より過しやすい学校を目指した1年

旧生徒会が行った改革

意欲的に活動してきた生徒会。今年生徒会として行ったことは、テスト期間中のコピー機使用を可能にしたこと、副会長と副委員長は1年生から募ることを定めた校則改正。そして錦城祭で生徒会企画のファッションショーを行ったこと。具体的には、コピー機については、テスト期間に紙の減りが早くなること、校則改正が早くなること、武蔵野給食センターの方に迷惑をかけること、禁止してしまおうこと、生徒からの要望が多かったこと、女子のロッカールームを提案したこと、女子のロッカールームのドアをアピールできたこと、と語った。達成できなかったのは、菓子パンの自販機のような飲み物以外の自販機を新たに設置するのは前例がないこと、動き始めることが難しく、改訂したいルールや新しく作りたいルールを聞いても反映することが難しくなったこと、設置を諦めたこと。錦城祭を盛り上げることに、今までは行われていなかったクラス企画の人を集めてクラス企画について話し合う「進捗会」の場を設けたこと。



1階自販機横のコピー機

生徒会活動を振り返る

旧生徒会の活動について元生徒会副会長の高梨恭一さん(2A)に話を聞いた。高梨さんは今年1年間の生徒会活動で「今年は生徒会として初めての分野にたくさん取り組んできました。なので、効率も悪くなってしまうので皆さんには迷惑をかけてしまったと思います。しかしその分、時間をかけてより良いものを作ることができました」と話す。そして「皆さんには、今年1年間が楽しいものだったと思うだけだから幸いです」と振り返った。で、より良い錦城祭にできるよう活動しました」と話す。

元錦城祭実行委員長

錦城祭実行委員長を務めた中山温仁さん(2C)は公約として「錦城祭に関する意見箱の設置、錦城祭を盛り上げることを掲げていた。錦城祭に関する意見箱の設置は、再び外部客を招いての開催となった錦城祭で、より錦城の雰囲気を感じてもらいたいという思いから、開催に至った。より良い錦城祭にできるよう活動しました」と話す。



より良い錦城祭を実現できたという

今期の意気込み

今期の生徒会長を務める高梨さん。「1来年で錦城は60周年を迎えますが、次の1年間は生徒会にとってもリスタートの年とするために立候補しました。生徒会がうまく機能する学校にするために、今年副会長として自分で感じたものを活かしていきたいです」と抱負を語る。そして「後輩にしっかりと引き継ぎを行いたいです。活気のある学校を作りたいと思います。また、今年も錦城に改革を起こすための基礎作りをしたいです」と強く意気込んだ。(香)

新聞委員会が最優秀賞

東京都高等学校新聞コンクール開催

11月12日(土)に三輪学園高等学校で第38回東京都高等学校新聞コンクールが開催された。表彰式の前には、実習として各学校の生徒が5~6人のグループを作り、一つの紙面を作ることを想定して、グループ内で紙面のテーマ設定とインタビューを行った。そして話し合った内容をグループごとに発表。参加した編集委員の山本葵さん(1H)は「他校の人にインタビューすることや、一緒に編集会議をするのは緊張しましたが、学んだことも多かった。今回の経験を今後の新聞づくりに活かしていきたいです」と話す。その後は表彰式が行われ、錦城高校は最優秀賞に選ばれた。これにより来年のかがしま総文に東京都代表として参加することも決定。最優秀賞に輝いた心境を委員長の中岡宗大さん(2M)は「今回で、15年連続で全国大会へ行く権利をいただきました。普段の錦城生のみなさんの協力のおかげだと思っています。今後もさらにクオリティーの高い新聞を作っていけるように頑張ります」と語った。(歩)



賞状を受け取る編集委員

新聞の魅力、地域へ発信

10月28日(金)にFM東久留米で毎週金曜日に放送されているラジオ番組『ゆったり小平』の収録が7階の生徒会室で行われ、新聞委員会編集委員の2人が出演した。収録されたものは1週間後の11月4日(金)にオンエアされた。収録は前後半に分かれており、前半は錦城高校新聞の概要について、後半は新聞を作っているうえで楽しかったことや目標としていることなどについて語った。



熱い想いを語る

実際に出演した新聞委員会副委員長の大浦優太さん(2M)は「今回のラジオを通して、新聞の魅力を皆さんに伝えたいと思います」と振り返る。そして「これからは錦城生だけでなく、地域にも密着した新聞を目指して頑張りたいです」と意気込んだ。(紫)

むらさき草

10月1日(土)、アニメ「SPY×FAMILY」の第2クールの放送が開始された。第1クールの終盤から見始めた自分は、第1クール終了のロスを引きずりながら3か月を過ごし、とうとう迎えた放送開始だった▼主人公はロイド・フォージャー、ヨル・フォージャー、アーニャ・フォージャーの3人。ロイドはスパイ、ヨルは殺し屋、アーニャは超能力者という裏の顔を持ち、それぞれの利害が一致したことをきっかけに家族を作って生活する物語だ。個性豊かなキャラクターが織りなす痛快コメディでありながら、仮初めの家族が真の家族のようになっていく過程を描き出している▼主人公の3人にはある共通点がある。辛い生き立ちを背負っているという点だ。ロイドは元戦災孤児、ヨルは幼少期に両親を亡くして一人で育て、アーニャは実験の被験体として生まれた▼家族の温かみを感じない3人が、家族として過ごしていくうちに家族がかけがえのないものであると認識していく▼近年、実際の家庭における諸問題はますます深刻化している。例えば児童虐待の件数は右肩上がり、2021年に全国225か所ある児童相談所に寄せられた虐待の相談件数は207,659件と過去最高を記録。他にも問題を挙げればきりがなく▼そのような問題が起きている今、なぜこのアニメが流行しているのか。それは、人々が潜在的にハートフルな家族愛を求めているからではないか。さらに3人の過去が明らかになるにつれ、よく見る人のシンパシーが高まるのだろう▼ここで第1クールのEDテーマである星野源の『喜劇』の歌詞を引用する。「あの日交わした血に勝るもの心からの『契約』」という歌詞なのだが、これは家族である必要が条件で決まらず「血のつながり」ではないということの意味しているのではないかと。物語のフォージャー家も、血のつながりのない偽装家族である。家族であるのに必要なのはそこに幸せを見出せるかどうかだと思ってしまう▼「契約」が生まれる。あなたの家族が幸せなら、きっとその「契約」が今も守られているということだろう。(香)

錦城の未来へバトンをつなぐ

新旧生徒会で座談会開催

11月11日(金)に新生徒会主催で行われた、前期・今期生徒会による座談会。10月まで生徒会役員を務めたメンバーと今年度の生徒会総選挙で選出されたメンバーが集まり、錦城高校が抱える問題や公約達成のための抱負、目指すべき錦城と生徒会の姿について話し合った。

旧生徒会が語る

まず、前期生徒会による一年間の振り返りが行われた。前期一般委員の大坂瑠々さん(3J)は生徒会活動の印象について「フラットに話し合える場でありながら、錦城をより良くするための意見を出し合える場でした」と話す。また、前監査委員会副委員長三浦一真さん(3J)は「生徒会の活動はあまり知られていないかもしれないけれど、自動販売機の設置やポロシヤツの導入などの様々な新しいことに挑戦できました」と主体的な活動の成果を挙げた。



前期生徒会と今期生徒会の顔合わせ。新旧生徒会が語り合う

「これからの錦城の行方は？」次に、今期生徒会により現在の錦城高校の課題点や公約が示された。

また、新監査委員会委員長の加園鈴也さん(2G)は、代議委員会の中でやる気がある人となりがいるため、無意味な話し合いをしている状態にあることを指摘。それを解決するために、代議委員の全員が積極的に会議に参加できる議題を考えるべきだと提案した。そして「代議委員の意識を高めることもスマホの問題を解決する道につながると思います」と語った。



自身の公約にも触れる

最後に、2つの生徒会による懇談が行われた。今後の生徒会について「中央委員会内で、一般委員と役員との差をつけないようにすることで公平な中央委員会が力を尽くしたいです」と決意を語った。



錦城の課題を指摘する

高梨さんは「60年生以降の生徒がやりたいことがいっつもできないような環境づくりをしていきたいです」と今期の生徒会が目指す目標を語る。その言葉に、前生徒会長の藤田和望さん(3A)は「きっと自分よりもっと多く生徒会をまとめてくれると思います。委員同士でサポートしあい、様々なことにチャレンジして欲しいです」とエールを送った。

最後に、2つの生徒会による懇談が行われた。今後の生徒会について「中央委員会内で、一般委員と役員との差をつけないようにすることで公平な中央委員会が力を尽くしたいです」と決意を語った。



先輩へアドバイスを贈る

進めた駒は次の舞台へ

将棋部全国・関東大会へ



大会に向けて練習に励む

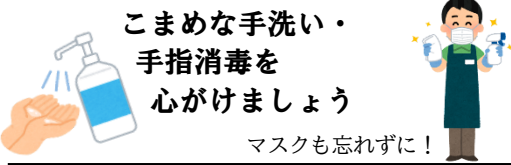
将棋部は11月3日(木)に行われた東京都高等学校文化祭将棋部門中央大会に出場。男子選手権では水谷祐太さん(2K)が準優勝、女子選手権では渡辺千紗さん(1E)が第4位、奨励の部で佐藤文田さん(1D)が5位と好成績を残した。この結果、水谷さんと渡辺さんは12月の関東大会へ出場を決めた。

1月に行われる全国大会に累計3回目となる出場を果たした水谷さんは対局中「自然体であること」を心がけたと語る。「相手に知り合いが多く、気兼ねなく対局することができました。相手の勝とうとする気迫がより強く伝わって

水谷さんは全国大会直前の12月に行われる関東大会について、ほとんどの相手が初対面で力量が未知数だが、その分モチベーションも高まっていると語る。女子選手権に出場した渡辺さんは、自分が5月の時よりも強くなっていると感じることができたそう。今回は個人戦ということもあり、夏に行われた全国大会とは違って頼れる仲間がいないので、不安なところもありますが、全

新型コロナウイルス

第8波特別警報発令中!!



こまめな手洗い・手指消毒を心がけましょう

マスクも忘れずに!

錦城と山形をつなぐ1枚の絵

旧校舎1階の下駄箱の正面に9月1日(木)から、山形県蔵王のスキー場で滑る生徒の様子が描かれた大きな絵が飾られている。描いたのは、蔵王に住む画家の小林舞香さん。福田副教頭先生によると錦城高校が開校以来1回生から50年以上にわたって山形が修学旅行先のため、山形のPRチームに所属する小林さんが「錦城高校と蔵王のつながりを絵に残したい」という思いで絵を描いてくれたそう。だが、絵が完成してから錦城に飾られるまでに時間がかかってしまったという。理由としては新型コロナウイルスの感染拡大が挙げられ、その影響で修学旅行は2年間中止となり、山形県蔵王に足を運ぶことができなかった。しかし今回59回生が蔵王に行くことができ、完成から三年越しに絵をいただいた。絵をいただくにあたり、修学旅行先でお世話になった宿の一つ、松金屋アネックスのスタッフの方と小林さんは親交があったことから、絵が完成した後、松金屋アネックスを通して錦城高校に絵が贈られた。絵を見た山下実久さん(2L)は「スキー場に奥行きがあり、中心に目が行きがちですが、絵の右上に月が残る感じに書かれているのが印象的です」と話した。



近づいて見ると生徒の名前が!!

この絵は、山形県蔵王に住む画家の小林舞香さんによって描かれた。小林さんは、山形のPRチームに所属し、錦城高校と蔵王のつながりを絵に残したいという思いで絵を描いてくれた。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で修学旅行が2年間中止となり、山形県蔵王に足を運ぶことができなかった。今回59回生が蔵王に行くことができ、完成から三年越しに絵をいただいた。絵をいただくにあたり、修学旅行先でお世話になった宿の一つ、松金屋アネックスのスタッフの方と小林さんは親交があったことから、絵が完成した後、松金屋アネックスを通して錦城高校に絵が贈られた。絵を見た山下実久さん(2L)は「スキー場に奥行きがあり、中心に目が行きがちですが、絵の右上に月が残る感じに書かれているのが印象的です」と話した。

小平が誇る彫刻家

平塚田中生誕150周年特別展開催



住宅街に佇む美術館の外観

小平市内にある平塚田中彫刻美術館。ここが9月17日(土)から11月27日(日)まで開催されていた特別展を取材した。岡山県と井原に生まれ、明治と昭和の激動の時代を107歳まで生きた田中。その各時代の代表作が全国から60点ほど展示された。

田中の彫刻は、対象となる物を写実的に彫り起こす作風から、頭の中のイメージを具現化する彫刻へと変遷を遂げていった。台座や作品の木目を意識して彫り、木の欠けやひびも素材の味として残しており、木の特性を活かした表現に優れている。昭和に入ると着色をするようになり、西洋の粘土的な表現から木独特のシャープな彫り口に変化した。田中は2次元のデッサン

「これからの活動を始めると、旧生徒会の3年生もそれぞれにアドバイス。三浦さんは「自分ができることを把握し、困ったときや挑戦したいことがあったら、周りの人を巻き込んで楽しんでください。公約達成への取り組みも決して無理はせず、次の世代へつなげることを大切にしたいです」と話す。様々な意見が挙がる中で特に多かったのが、中央委員会内の雰囲気をよくすること、そして生徒と先生のコミュニケーションをとる機会を増やすこと。そうすることで、情報共有や公約達成につながり、生徒会活動の幅を広げていくことができるそう。



『気楽坊』(右)とその習作

田中の作品で最も有名なのはやはり『鏡獅子(かがみじし)』だろう。金箔の上から着色が施さずに裸像を下敷きにして彫ることができた。(金)

生徒会動静
11.21~11.30
11.29日(火) 合唱祭実行委員会
11.30日(水) 代議員会

大会報告
11月23日(水) 映画研究部
11月23日(水) 第45回東京都高等学校文化祭放送部門
ビデオメッセージ部門
「橋は続くよどこまでも」
(全国大会出品作品 準優勝)
ビデオドラマ部門
「リセットゲーム」 優勝
☆第47回全国高等学校総会文化祭放送部門(かしま総文2023) 出場決定

バドミントン部
▽11月20日(日)
東京都高等学校バドミントン新人戦兼全国高等学校選抜大会東京都予選大会(団体)
東京都西ブロック
女子 ベスト8
男子 第3位